

令和5年度 藤島高校 学校評価書

項目	具体的取組み	成果と課題	改善策・向上策
教育課程 学習指導 研修	生徒一人ひとりの能力や個性に配慮した上で、生徒の主体性に基づいた教育活動を推進する。	多くの教職員が生徒の能力や個性に注意を払い、生徒の主体性に基づいた教育活動を行っており、多くの生徒が各教科に対して積極的に関与し、自らの学習を調整しながら授業や課題に取り組む割合も高いことがうかがえる。一部に「どちらかといえばいいえ」や「いいえ」との回答もあるため、その背後にある理由やニーズを把握していく必要がある。	全体的に目標に達しているが、肯定的な回答を得られなかった理由についての記述欄を設けたり、生徒面談の中で授業や課題への取り組み方の状況についての話題を多く取り入れたりすることで、その生徒の教育環境の改善に向けた情報を引き出していく。
	「授業評価」を踏まえて、授業内容の改善・充実に努める。	教職員の多くが授業評価を参考にし、改善に取り組んでいることが分かる。授業評価アンケート後に自己評価を作成し、その中の指導上効果があったと思われる取り組みについて共有することが、教育の質を向上させ、授業改善の機運を高めることにつながると考えられる。現在のオンラインアンケートでは、すべての科目を対象とすることができないので、対象科目を拡張する工夫が必要である。	調査対象科目を教科間で調整したり、年度ごとに入れ替えたりして、授業評価情報を得る科目を増やし、より多くの教職員が授業評価をもとに継続的に授業改善に取り組めるようにする。
情報	校内ネットワークおよび情報機器の充実と利用促進を図る。	昨年同様、教員・生徒ともに目標値を大きく上回っている。採点システムを活用することで、採点終了とともにテスト分析集計が完了し、すぐに生徒にフィードバックできるなど、教員の負担軽減にもつながっている。生徒へのラーニングシステムの活用法も浸透し、校内ネットワークおよび情報機器が効果的に教育活動に活用されていることがうかがえる。	より分かりやすいネットワーク環境を設定し、さらに有効な情報機器の活用法を研修会を通じて共有していく。故障・老朽化に伴う機器の不足、パフォーマンスの低下が予想されており、機器の整備・管理に注力する。
生徒支援	服装や、スマートデバイスの使用などに関して、生徒が自律的行動がとれるように支援する。	教職員においては目標値を上回っているが、生徒の「どちらかといえばいいえ」「いいえ」を合わせると、3年生は9%と少ないが、2年生30%、1年生22%と前年度よりも高い数値を示した。令和4年度より、スマートデバイスの使用条件を緩和した結果とも考えられ、早急に対策を講じる必要がある。	統一LH等を使って、ルール緩和に伴って生徒自身が自律的にならなくてはならないということを実感させるとともに、生徒会活動を通して、繰り返し自律的な行動を促す取り組みを行っていききたい。
	いじめの未然防止と早期発見、いじめの解消に学校全体で取り組む。	ほぼ全員の教職員がしっかりと「いじめ対策」に取り組んでいる。本校では普段から多様性を受け入れるように指導しているため、いじめの発生件数はごく少ない。ただ、今年度は「いじめアンケート」において、何件かのいじめが疑われる報告(自己申告、周囲の生徒による申告)があり、いじめ対策サポート班を組織し、聞き取りなどを行った。	今後も、いじめの未然防止・早期発見・解消に対し、100%を目標に取り組んでいきたい。また、今後はネットトラブルについての啓発活動に力を入れ、さらに教員間の情報共有を積極的に図っていききたい。
進路支援	入試情報の提供、生徒の学力分析、面談や進路行事などによって必要な情報や助言を提供し、生徒が主体的に進路目標を設定し、自ら工夫して学び続けるよう支援する。	教職員全員が進路支援に十分に取組み、生徒の93%が進路について十分に考え、自ら工夫して学習に取り組んでいると回答している。また、保護者の96%が本校の進路支援に満足していると回答している。このことから、本校の進路支援体制は全体的に整っているといえる。	進路行事、進路情報の提供によって生徒が進路意識を高め、教科、学年会と協働することによって生徒が自己の学習を見直し、主体的に取り組んで進路実現できるように支援したい。
保健管理	担任、保健部、専門家の連携により、健康管理と教育相談活動を充実させる。	先生方が、普段のコミュニケーションや面談等で生徒の心身の状態について親身に考え、対応してくださっているおかげで、生徒も親切に対応してくれていると感じており、目標達成できている。担任・副担任ではない教員に相談する生徒もいるので、教員間の情報共有が必要。保護者からみると、教員が子どもへの心身の相談・悩みへについて、1、2年生では親切に対応しているの回答が「はい」の割合が「どちらかといえばはい」よりも低くなった。	3年生では、進路関係も含め教員と生徒の面談も増えており、三者面談等もあるため保護者と接する機会も増えるが、1、2年生では少し希薄なのかもしれない。教科担任や部顧問との情報共有も定期的に行う必要がある。また、保健室利用状況なども伝え、必要があれば相談担当やスクールカウンセラーとの面談や活用をすすめていく。
環境美化	学校全体でゴミの減量化と環境美化に取り組む。	教職員の環境美化への取組が100%になり、普段からの清掃指導やゴミ分別等へのご協力に感謝している。生徒の回答も目標を超えているが、一部中途半端な清掃や移動の遅さなどがみられ、指導する場面もあった。自主的に取り組むことができる支援を考え、学校を大切する気持ちを育てたい。保護者の本校への環境美化への取組に満足しているかについては「はい」の回答が低いのは、校舎の老朽化や清掃では落とせない汚れなども関係していると思われる。	清掃区域の見直しや、清掃用具の補充などをしっかりとし、限られた人数と時間で、しっかりと清掃に取り組みさせたい。ゴミ分別や古紙回収を徹底し、ゴミの減量化や再利用に努める。校内外を巡視し、修繕箇所や手前で対応できないような内容等を調査・整理し、業者に委託する計画を立てながら、環境美化をすすめていきたい。安全面にも留意しなければいけない。
保護者との 連携	保護者と連携して教育活動を行うために、PTA活動や連絡を充実させる。	教職員の約98%、生徒の約91%が保護者への連絡を十分に取っており、相互の連携は図られていると考えられる。保護者に関しても、90%以上が教育活動や連絡を十分理解しており、学校の理解促進の取組みに満足している。昨年度同様、すべての項目が判定基準の目標値を超え高評価である。	今後も学校の教育活動を十分理解していただくように、保護者への広報・連絡方法の改善の検討を継続していく。保護者への広報のために、PTAのホームページの充実につとめる。全教職員に、保護者と連携して教育活動を行うことの意義を常に意識するよう働きかける。
	同窓会や購買・食堂等の外部との連携や連絡調整を行い、教育活動を充実させる。	同窓会の取り組み「ようこそ先輩」に生徒の約95%が満足しており、職業形成や進路選択の参考としてしていると考えられる。また、ホームページや校舎内掲示板を活用しての案内など購買・食堂の環境や取り組みにおいても生徒の95%が満足している。すべての項目が判定基準の目標値を超え高評価である。	今年度は業者撤退の申し入れがあり、2月までの営業となった。来年度の委託業者においても引き続きホームページや校舎内の掲示板を活用して食堂メニューの案内をし、利用者増をすすめる。また、自動販売機の取り扱い商品を随時検討し、より利用しやすいように改善に努める。
図書・研究	学校設定教科「研究」に対し、生徒が主体的に取り組むことができるよう充実させる。	1～3年いずれの学年においても93～97%の生徒は活動に熱心に取り組んでいると回答している。満足度は最も高い2年生で92.0%、最も低い3年生で82.8%と目標を上回っている。一方、満足度の低い生徒も見受けられるので手法の見直しを繰り返し、探究活動をより充実させていく事が課題である。	研究Ⅱでは今年度から課題研究が2単位になり十分な時間をかけて研究に取り組めるようになったと共に、「データ分析の仕方」などの各研究のステップに対する取組を充実させてきた。今後はこれらをさらに充実させると共に、「なぜ研究をするのか」「研究の意義」を伝えることも必要と考える。
	学校設定教科「研究」に対する全校教職員による生徒支援体制を充実させる。	学校設定教科は、担当者が定期的に打ち合わせを行いながら進めており、教職員の93%が学校全体の取組みとなっていると回答している。一方で、「担当していない教科に関しては分からない」という意見があり、全教員で取り組める仕組み作り、教員間の理解を深める取組が必要である。	できるだけ多くの教員が「研究」の授業を担当することで学校設定教科に対する理解を深めてもらうとともに、担当者打ち合わせ会や放課後の教員研修会において教材や運営方法に関しても多くの教職員からの意見を収集し、改良する。また、学年会との連携をより緊密に行い、協力して運営に当たれるよう工夫する。
	図書館行事や広報活動を充実させ、生徒の読書意欲を喚起する。	教職員の読書指導の取組指標は93%となり、目標指数を上回り昨年度から5%向上した。図書館の活動によって生徒の読書への関心が高まったかという成果指標は73.5%と、目標指数は下回ったが3年前より向上を続けている(R2 49.6%→R3 63.8%→R4 72.5%→R5 73.5%)。「アサドク」配布を取り入れた3年前より読書への関心も年々高まっているので、幅広い分野の文章に触れる事は読書意欲の喚起に一定の効果があると考えられる。	読書指導をより活発にするための工夫、図書館と各教科との連携を密にすることが課題として挙げられる。昨年度から図書部と研究部が一体化したことで課題研究との連携は強化され、課題研究に必要な図書等を多く取り入れることができた。今後は公立図書館や文書館等とも連携し、外部も含めた幅広い形で読書意欲を喚起していききたい。
SSH活動を通して、生徒の科学的な関心を高める環境を充実させる。	本校が科学系イベントを活発に行っていると感じている生徒は92%と目標指数を大きく上回った。生徒の事後アンケートでもSSH活動への参加が科学的な関心を高める事につながったと答える生徒は多い。ただ、「イベントが多すぎてどれが重要なのか分からない」といった意見もあり、今後はイベントを精選し系統化する事が課題である。	Classroom「すずかけAGORA」等を通じて各種イベントに関して分かりやすい広報を行う。各種行事を年間一覧表にまとめることで重複している取組や日程的に難しい取組がないかを明らかにするとともに、生徒が見通しをもって参加できるようにする。	